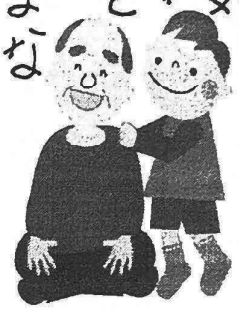
オレンジ新聞

第1号

発行日：令和3年9月

認知症ってどんな病気

認知症は脳の病気だといわれています。さまざまな症状がありますが、代表的な症状のひとつにもの忘れがあります。



認知症になると、もの忘れで同じことを何度も聞いたり、お財布をどこに置いたか忘れてしまうなど、生活の中でたくさんの困りごとがでてきます。

お年寄りになればなるほど多くなります。85歳以上のお年寄りは3人に1人が認知症だといわれています。まだ少ないですが、若くて30さい代で認知症になる人もいます。

私の場合

私が認知症と診断されたのは50歳を過ぎたころでした。発症当時は、中学校の教頭をしていましたが、高熱が続き、病院に入院しました。退院後、仕事に復帰しましたが、物忘れ等が続き、退職しました。

現在は、高齢の母と二人で暮らしています。

生活をしている中で工夫していることは、大切なものをどこに置いたか忘れてしまうので、置き場所を決めたり、日付がわかりにくいのでカレンダーに印をつけたり予定を忘れてしまうので、手帳に記入して確認したりしています。

